

| | |
|--------------------|--|
| 2. 事業の目的と概要 | |
| (1) 上位目標 | アフガニスタン市民社会組織（以下、CSO）の能力を強化する。 能力強化のための各種研修の実施などを通じて CSO の実務能力が育成され、CSO 間の連携が促進される。 |
| (2) 事業の必要性（背景） | <p>【CSO の必要性と可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> アフガニスタンでは市民の生活が厳しい状況が続いている。特に地方では、基本的な社会サービスを提供する地方政府の能力は乏しく、国際社会による支援も十分なものではない。そのなか、住民と最も近い距離に位置する CSO は、他のアクターによる接触が困難な地域や社会的弱者へのアクセスが容易なアクターであり、現地の支援ニーズを汲み上げやすく、また支援を届けやすい立場にある。つまり、地方政府や国際社会が提供しきれない支援を代替して計画・履行できる潜在性を有している。 <p>【CSO の課題とその克服の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の CSO は、人びとのニーズに応えられるような能力がまだ育っていない。とくに組織運営、情報収集、事業立案、事業実施、関係アクター（他の CSO、関係当局、ドナーを含む国際社会）との調整、などにおいて能力強化が必要とされている。 アフガニスタンには市民社会全体の能力強化を図ろうとするネットワーク型 CSO があるものの、体制はぜい弱で、資金も十分ではない。また、そうした活動が主に首都カブールが中心となっており、各地方を網羅しきれていない。 |
| (3) 事業内容 | <p>※本事業の見据える全体像について（3年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> アフガニスタンの代表的な CSO ネットワーク組織である 2 団体、ACBAR (Agency Coordinating Body For Afghan Relief) と ANCB (The Afghan NGO Coordination Bureau) による CSO の能力向上のための研修を企画・実施する。また、それを通じて地方も含めた CSO 間のネットワーキングを強化する。 本事業は 3 年間の事業と位置付けている。個々の CSO が人びとのニーズに応じていくための能力向上をめざし、そのための相互補完能力やネットワーキングも強化する。 各年度では、全体像を踏まえ段階的に活動を行う。 <p>■ 1 年度目： CSO ネットワーク組織を通じた CSO の能力向上とネットワーキングの構築</p> <p>初年度は、すでに実施経験がある研修内容を用いて地方で研修を実施することで、地方の CSO の能力強化、参画、ネットワークの強化を図る。具体的な内容は以下。</p> <p>【能力育成のための研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ACBAR は年間を通じて研修を 36 回、ANCB は研修を 37 回行う。 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでにそれぞれの団体が経験のある研修内容を中心とし、①「反汚職」②「平和構築と和解」③「よい統治と人権」④「運営実務（行動規範、NGO 法ほか）」⑤「紛争下における人権とジェンダー」を予定。 ・研修チーム（講師）は、各チーム2名とし、ACBAR：2名×3チーム＝6名。ANCB：2名×3チーム＝6名。合計12名となります。選定は公募、書類選考、書類試験、面接の過程を経て行われる。 ・研修教材はそれぞれの団体がすでに作成しているものに必要に応じて改良を加え、それを印刷して教材として用いる。 <p>ネットワーク間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACBAR と ANCB は TOT トレーニング、評価活動を合同で行う。 <p>日本での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両団体が研修実施主体としての専門性を高めるため、組織運営能力、調整能力向上のための研修を日本にて実施する。 <p>※1年度目（本事業）の詳細は下記3(4)「事業実施計画」と別紙「様式1-e」を参照。1年度目の本事業を踏まえ、2・3年度目には以下の活動を段階的に行う。</p> <p>■ 2年度目： 研修の拡大とネットワークの機動化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年度目で研修を実施できなかった地域での研修の実施。 ・財務管理、アカウンタビリティ、事業運営などの新しい研修の準備とそのための ToT 実施。 ・1年度目に構築したネットワークを機動化させ、地域ごとの CSO 定期会議や中長期活動計画を実施。 ・個々の CSO 能力強化のための研修の実施を複数の ACBAR・ANCB 傘下団体に委託することを前提にした ToT パイロット事業を実施。 <p>■ 3年度目： 新規内容の研修とネットワークの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務管理、アカウンタビリティ、事業運営などの新規内容の研修の実施。 ・地域ごとの CSO 定期会議や中長期活動計画の実施を継続。 ・ToT パイロット事業参加の ACBAR・ANCB 傘下団体が各地域における研修実施を行うことで、さらなる各地 CSO の能力強化を図る。 ・2年度目に機動化させたネットワークを通じて、CSO が市民の声を集約し、政策決定者や国際社会、ドナーに的確に伝える仕組みを整え、自らが支援事業を計画、実施できるような体制を確立する。 |
| (4) 持続発展性 | <p>本事業の主体は、すでに活動実績のある2つのアフガニスタンのネットワークであり、本事業終了後も、これらの団体の活動により、CSO 間の連携および能力強化が継続的に行われる。</p> |

| | |
|---------------------------------|---|
| <p>(5) 期待される成果と 成果を測る指標</p> | <p>■ ネットワーク組織と個別 CSO の実務能力が強化される</p> <p>【成果を測る指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に参加した CSO 数 (両 CSO ネットワーク参加団体 316) ・ 研修に参加した参加者数 (1 年目の場合) : 30 人 × 73 回 = 2,190 人) ・ 地方で開催した研修の回数 <p>評価は、研修開催の都度実施される参加者による評価表への記載に基づき毎月実施され、前月のものと比較されるが、中間時と終了時に累計分を評価。両団体のスタッフにて評価にする。</p> <p>参加者に聞く質問をもとにした評価指標は以下：研修が希望を満たしたか／研修の目的は満たされたか／新しい知識技術は得られたか／仕事での実践に及ぼした影響／研修者の教え方／研修の内容と組み方／教材／実践的研修内容／研修環境／研修進行とロジ一般ほか。</p> <p>■ ネットワーク組織および個別 CSO 間の連携が促進される</p> <p>【成果を測る指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CSO ネットワーク組織が、地方研修実施を通して地域と恒常的な連絡・調整体制を構築している。 ・ 研修を通じて関係を深めた CSO が、地域ごとの定期会議や中長期活動計画を実施し、継続する。 ・ ToT パイロット事業参加の ACBAR・ANCB 傘下団体が各地域における研修実施を実際に行う (3 年度)。 |
|---------------------------------|---|